

『生き生きしたまちへ ～道空間と拠点の整備から』

日時：2009年11月14日（土）14:30～16:30

場所：北斎ホール（勤労青少年ホーム）

発表者：理科大生と住民による6プロジェクトチーム

進行役：川向正人（東京理科大学・小布施町まちづくり研究所長）

入場無料・予約不要

小布施町と東京理科大学によって創設された「東京理科大学・小布施町まちづくり研究所」も5年目に入りました。

年に1回の大きなイベントである研究活動報告・シンポジウムを、今年は11月14日（土）に北斎ホールで開催します。今年の統一テーマは「生き生きしたまちへ～道空間と拠点の整備から」です。併せて、11月に入りますと役場2階の研究所内に、ワークショップを含んだ活動成果全体を展示しま

すので、ぜひご覧ください。

一昨年から、シンポジウムは、外部から招いた偉い先生のご意見をうかがう形式から、住民が自ら実践する内容を発表して、それに住民が意見を述べるといふ、まさに「住民主体」の形式に、大きく変えました。報告される実践例は、いずれも行政からのお仕着せではなく住民が自発的に取り組むもので、だから誰もが生き生きと夢を語ります。そもそも小布施のまちづくりは、行政主導で住民が「助成金をもらえるならば、やってもいい」と考える他の市町村とは根本的に異なるものです。

今年も、身近な生活環境の問題に住民が自ら取り組もうとしている例を取り上げ、研究所がお手伝いして制作された図面・模型を使って、ご本人に発表していただきます。

「国道403号線の歩道と沿道空間」「里道ネットワークの整備とマップ制作」「中町エリア回遊路計画」「蚕室活用」「地域活動の拠点づくり」「はよんば再生」と6テーマが並びます。共通しているのは、車社会のなかで極端に歩きにくくなり忘れ去られた素敵な道空間を再生して、人と物の流れを良くし、それで地域を生き生きさせようとする点です。

研究所の学生が、シンポジウム当日までに、関係する住民の方々を訪ね、ビジョンを練り上げるお手伝いをします。協働してまちの未来を考える機会にしたいと願っています。

研究活動報告のテーマ

「小布施の蚕室」



明治期に出版された養蚕の技術指導書である「蚕書」には、蚕室を構成する建築的要素が記述されています。その建築的要素が実際の蚕室にどう実現されたかを、小布施の43棟の付属屋蚕室を対象に調べた結果を報告します。小布施の蚕室の特徴が分かります。

「道空間研究」



国道403号線とその沿道地区を詳細に調査して分析を加え、道と隣接する建物との関係、表通りから奥へと繋ぎ、人を引き込む要素を明らかにします。さらに分析に基づいて、新たな道空間を提案します。

「北信濃の酒造空間」



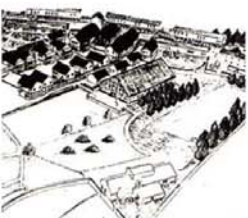
調査範囲を北信濃一円に広げた、近代化に伴う酒造空間の変化に関する研究です。閉鎖的であった「造り酒屋」がまちに開かれて魅力的な活動拠点になりつつありますが、その実例を報告し、酒造空間のもつ可能性を考察します。

「まちづくり比較研究～銀座・日本橋」



そこに生活者がいなければ、生き生きしたまちづくりは不可能です。オフィス・ブランドショップなどの進出によって急速に変化しつつある銀座・日本橋を対象に、今なお残る木造住宅・店舗に焦点を当て、この地域での生活者の現状を明らかにします。

「パターンランゲージと景観条例」



“誰もが参加できるまちづくりの共通言語”として1977年にC・アレグザンダーによって「パターンランゲージ」が提案されています。このパターンランゲージを景観条例に応用した先進事例として真鶴町を調査しました。有効性と問題点、とくに実際の運用にもなっている発生している問題点について報告します。

「景観づくり比較研究～リュブリャナ」



スロヴェニアの首都リュブリャナでは、建築家ヨジェ・プレチュニクによって街灯・橋・階段などが一つひとつ丁寧にデザインされて、小布施と同様に「実体的」まちづくりが進められました。その研究報告です。

「たたき」



かつては民家の土間などに使われた「たたき」を用いたワークショップを行うに当たって、必要な材料・道具・技術について研究しました。土は焼くと瓦になり、塗ると壁になるほか、たたきとして床にも使われました。さまざまに形を変える土という自然素材の素晴らしさについて考えます。

ワークショップ「たたこう！たたき」の報告

（発表者：研究所学生+栗ヶ丘小学校3年生の児童）



第5回ワークショップ「たたこう！たたき」（8月24日開催）では、かつて民家の土間などの仕上げに使われた「たたき」に挑戦。牛乳パックに混合土を入れ、突き棒で固めて制作された「たたきブロック」は、栗の木レンガのような舗装材になります。制作風景を写真や図を使って紹介し、感じたこと、学んだことを児童が報告します。